

1 朝のひめい 4

2 生きている? 25

3 茶髪ちやばつの男 46

4 コンビニのまえで 53

5 命か? 食べ物か? 72

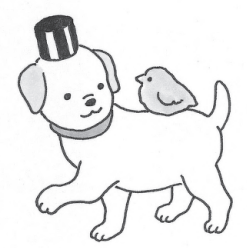
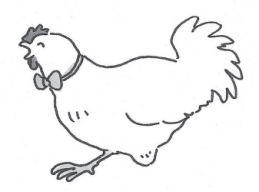
6 ヒカリ新聞 87

7 美月みつきによばれて 104

8 ノーたまご 116

9 ヒカリ新聞第二号 137

10 プレゼント 145



1 朝のひめい



城あと公園の小高い山の上で、あすかは、ふわーんと大きなあくびをした。朝の風が、おかつぱのかみをなびかせ、おでこがまる見えになった。

「ねえ、チェリー。めっちゃねむいけど……」

つづけてもうひとつあくびをすると、あすかは、チェリーをだきあげた。

「ほーら、見てごらん」

緑のたんぼがいちめんひろがり、そのむこうに、川がゆったりとうねっている。川の流れは鏡みたいにきらきらして、点在する家々や、こんもりとした森をいくつ

もとおりすぎる。手まえには密集した菜の花畑。五月なのに、ふく風は意外に冷たい。

「やつぱ、いいけしきじゃん、ここ」

チェリーが、ぺろぺろあすかのほおをなめた。

チェリーは、おなじ四年一組の親友、高野ひかりからもらった、メスの子犬だ。

白いからだに、茶色いたれ耳と、さくらんぼのようなまるっこい鼻がかわいらしい。まだ、生まれて四か月だ。

ひかりの犬、メイが子犬を五ひきうんで、最後の一匹きのもらいてがないからって、「おねがい」と、あすかになきついてきたといったほうが、あっているかもしれない。

あすかは犬がだいすきだし、おとうさんもおかあさんも、中一のおにいちゃんも、犬を飼うことに、さんせいしてくれた。

たったひとつ、朝夕のさんぽは、かならずあすかがすることを、条件にしていた。

けれど、チェリーがきて、一週間しかたっていないというのに、きのうの朝、さんぽをわすれた。

ううん、わすれたわけじゃないんだ。つつい、寝すごしてしまったんだ。

その日は、朝ごはんも食べないで学校へダッシュしたっけ。

けつきよく、おかあさんが、チェリーのさんぽをすることになった。

「パートの早番の日にかぎって、もう、あすかったら。おまけに雨がふってきたわ」

いやみばかりいわれた。

たった一回、さんぽをしなかっただけなのに。

もちろんあすかにしては、ちゃんとした理由があったのだ。

あすかのかようさくら小では、四年生になると、全員クラブ活動に参加しなくてはいけない。クラブ活動は授業のいつかんとしてみなされ、金曜日の六時間目がわりあてられている。

ひかりは、走るのがとくいだから、速攻で陸上クラブにきめたといった。

五月ももうなかばで、ほとんどの子がクラブ活動を楽しんでいる。

あすかは、新聞クラブに、はいろいろと思っていた。

二年生のときに、作文で賞をとったことがあるので、書くのが好きだった。カメラをさげて、ペン一本で、いろんな記事を書くなんて、かっこいいじゃないか。

それですぐに、入部のでつづきをとったというのに。

あすかは会議室をたずねて、おどろいた。新聞クラブの希望者が、たくさんいたのだ。学級委員の大野翔太も、メガネ女子で、クラスの優等生、牧田ゆみえの顔もあった。

それもそのはず、さくら小新聞クラブは、全国小学生新聞コンクールで、去年もおとしも優勝した。クラブ長の六年生、北村美月の文章力は、おとな顔まけという評判だ。

去年、美月の書いた記事は、「災害時におけるペットとの共同生活」だった。美月は、「ペットも人間といっしょに、ひなんでできるように、自治体の思いやりが必ず」とくりかえした。ぐうぜん東関東テレビに出演した美月を見たあすかは、頭が